

平成17年度「魅力ある大学院教育」イニシアティブ 教育プログラム及び審査結果の概要

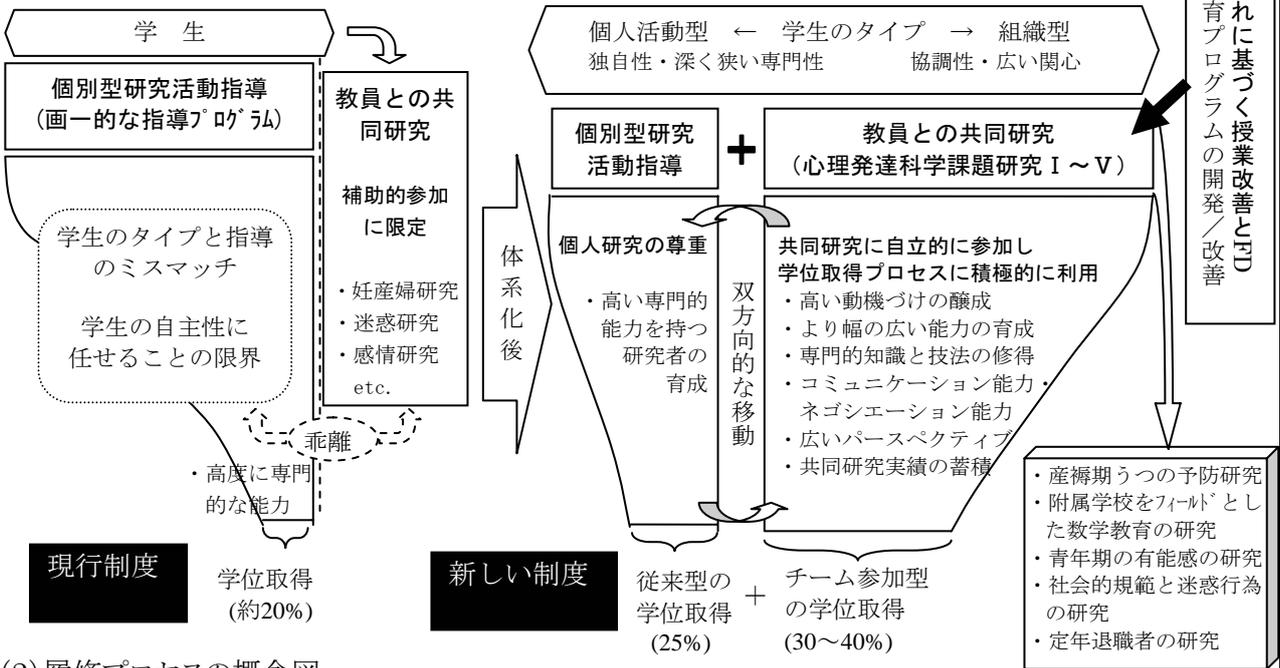
◇「1.申請分野(系)」～「6.履修プロセスの概念図」:大学からの計画調書(平成17年7月現在)を抜粋

機 関 名	名古屋大学	整理番号	a011
1. 申請分野(系)	人社系		
2. 教育プログラムの名称	チーム参加型プログラムによる教育の体系化		
3. 関連研究分野(分科) (細目・キーワード)	主なものを左から順番に記入(3つ以内) 心理学		
	主なものを左から順番に記入(5つ以内) (教育心理学、臨床心理学、社会心理学、実験心理学)		
4. 研究科・専攻名 及び研究科長名 ([]書きで課程区分を記入、 複数の専攻で申請する場合は、 全ての研究科・専攻を記入)	(主たる研究科・専攻名) 教育発達科学研究科・心理発達科学専攻[博士前期課程] 教育発達科学研究科・心理発達科学専攻[博士後期課程]	研究科長(取組代表者)の氏名 村上 隆	
	(その他関連する研究科・専攻名)		
5. 本事業の全体像			
5-(1) 本事業の大学全体としての位置付け(教育研究活動の充実を図るための支援・措置について)			
<p>名古屋大学は、研究と教育の創造的な活動を通じて「世界屈指の知」を創生し、「論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人」を育てることを使命としている(名古屋大学学術憲章)。たゆまぬ努力により、豊かな文化の構築と科学・技術の発展に貢献してきた。基礎技術を「ものづくり」として結実させ、数々の世界的企業を生んだ「ひと」を育成した風土のもと、既存の権威にとらわれない自由・闊達で批判的な精神に富んだ学風をもつ。</p> <p>この学風の上に、本学は、従来の専門に基づく領域型8研究科の拡充(大学院重点化)を行った。また、国際化や環境問題など新しい問題の学際的な研究を目指し、文理融合型を中心とする5研究科(独立大学院)を新設した。「中期計画」に、「領域型分野及び文理融合型分野の専門教育の充実」を掲げ、大学院教育の実質化に努めている。</p> <p>本学は現在、大学院生の14%(平成17年度)が留学生であり、国際的な通用性をもつ高い質の大学院教育を目指している。本事業を推進するため、実績に基づく予算の傾斜配分措置など、大学としての支援を期している。</p>			

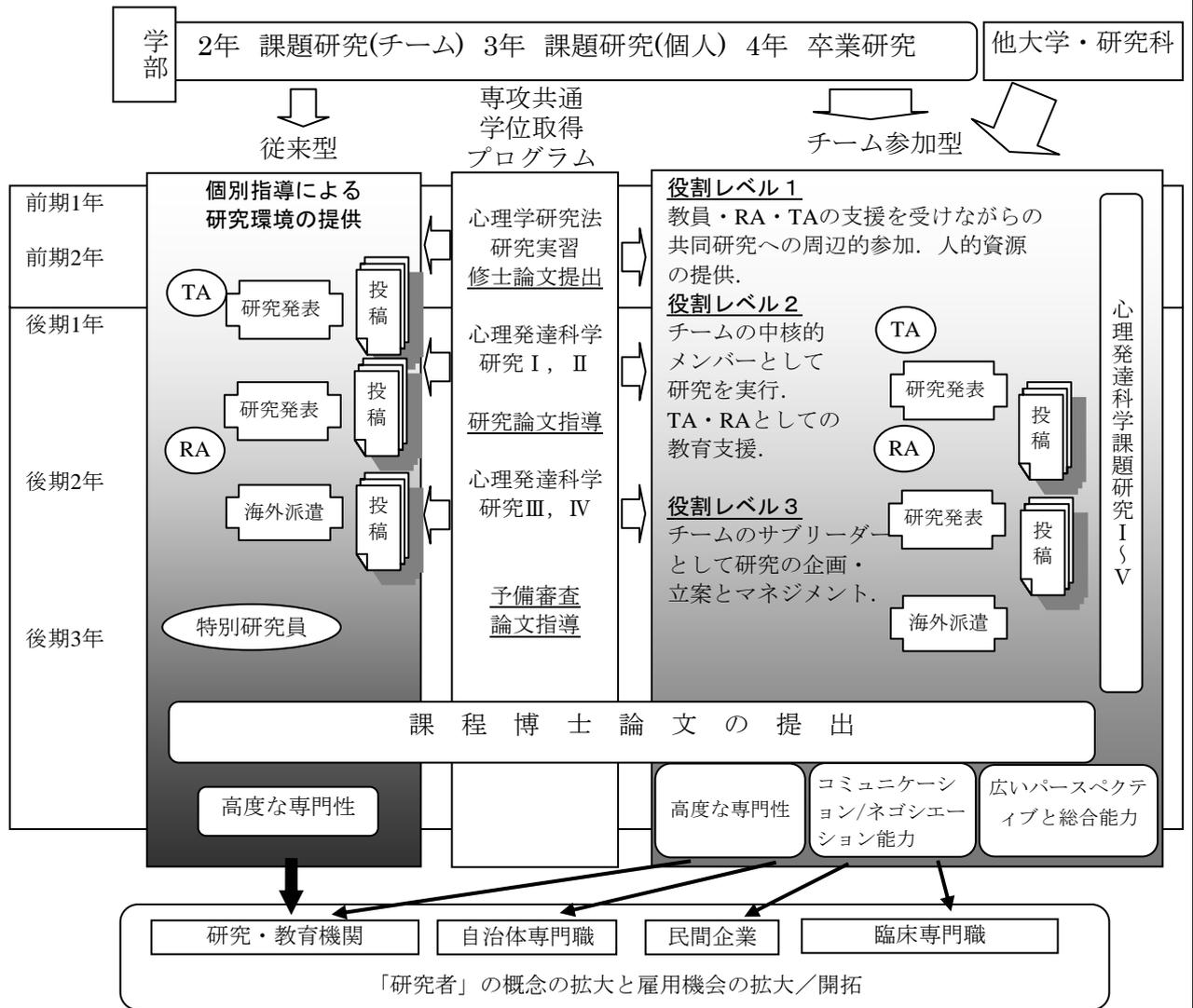
機 関 名	名古屋大学	整理番号	a011
<p>5-(2) これまでの教育研究活動の状況(現在まで行ってきた教育取組について)</p> <p>① 前期課程では、自立的な研究者として必要な基礎的知識や技法を修得させることを目的に、学生の専攻領域の科目を中心に、幅広い授業科目を履修させてきた。また、実験・実習、フィールド型の授業も開講してきた。</p> <p>② 後期課程では、個別教員による適切な指導に重点をおきながら、年度を追って段階的に、自立的な研究者として必要な能力や技法を身につけさせるための科目を開講してきた(心理発達科学研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ)。学位論文の作成に向けて、学会誌等への投稿を促し、研究論文の指導を実施してきた(研究論文指導)。大学教員になるために必要な教育力・指導力の訓練を行うために、学部学生の卒業研究の準備のための授業で指導に当たらせてきた(研究指導法演習)。</p>			
<p>5-(3) 魅力ある大学院教育への取組・計画(大学院教育の実質化(教育の課程の組織的展開の強化)のための具体的な教育取組及び意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画について)</p> <p>①現在の教育課程の問題点と新たな教育プログラムの提案</p> <p>現在の教育課程は、個別指導—個別研究活動型である。しかし、そのような教育課程に適合できずに、3年で後期課程修了=学位取得ができない学生が多く存在している。その理由は、従来の教育課程と学生のタイプとのミスマッチ(集団活動で力を発揮するような学生)や学生の自立性に任せることの限界(明確な指示・マニュアルに慣れた学生の増加による)ではないかと想定している。そこで、教員が主導する共同研究に授業として参加させるチーム参加型の教育プログラム(科目名は心理発達科学課題研究)を開発する。</p> <p>②チーム参加型プログラムを開講することで問題が解決されるか?</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) このプログラムは、集団活動で力を発揮する学生や明確な指示・マニュアルがあった方がよい学生(学生自身による選択)を対象としている→ミスマッチの解消 2) 学生は、基本的には課題研究の授業の中で研究テーマの発見、研究計画、データ収集・分析、論文執筆を行うが、常に教員やRA等の支援を受ける→学習支援の仕組み 3) 学年進行で、支援の受け手から与え手に、実働部隊から企画立案や研究実施の責任者へと役割を変えることになる。それぞれの役割の中で、③-2)に上げる能力が修得される→周辺の参加から中心的参加へ <p>③チーム参加型プログラムの特色</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) このプログラムは博士前期課程から開講し、指導教員、RAやTA、受講学生で構成される。 2) このプログラムで育成される能力は、心理学についての高度に専門的な知識や技法に加えて、コミュニケーション/ネゴシエーション・スキル、パースペクティブの広さや多様な考えをシナジーする能力である。研究が常に多くの人の討議で進められることと、学年進行で討議のまとめや企画立案の役割を果たすようになるので、その中でアイデアを広い視点で捉えることや複数のアイデアをシナジーすることが必要となると期待されるからである。 3) このプログラムでは、チームとしての生産性を上げることと同時に、従来の個別指導のよさを活かし、学生の個性や研究能力を育てることに力点が置かれる。 			

6. 履修プロセスの概念図

1) 現状と新体制との比較



(2) 履修プロセスの概念図



機 関 名	名古屋大学	整理番号	a011
<p data-bbox="165 203 580 232">< 審査結果の概要及び採択理由 ></p> <p data-bbox="165 297 1430 472">「魅力ある大学院教育」イニシアティブは、現代社会の新たなニーズに応えられる創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うことにより、大学院教育の実質化（教育の課程の組織的な展開の強化）を推進することを目的としています。</p> <p data-bbox="189 492 485 521">本事業の趣旨に照らし、</p> <p data-bbox="189 539 1430 613">①大学院教育の実質化のための具体的な教育取組の方策が確立又は今後展開されることが期待できるものとなっているか</p> <p data-bbox="189 633 1206 663">②意欲的・独創的な教育プログラムへの発展的展開のための計画となっているか</p> <p data-bbox="165 683 1430 857">の2つの視点に基づき審査を行った結果、当該教育プログラムに係る所見は、大学院教育の実質化のための各項目の方策が非常に優れており、十分期待できるとともに、教育プログラムが事業の趣旨に適合しており、その実現性、一定の成果と今後の展開の面も期待できると判断され、採択となりました。</p> <p data-bbox="189 878 1187 907">なお、特に優れた点、改善を要する点等については、以下の点があげられます。</p> <p data-bbox="177 972 624 1001">〔特に優れた点、改善を要する点等〕</p> <ul data-bbox="165 1021 1430 1196" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="165 1021 1430 1097">・ 課程博士取得向上を目指す体系的な教育課程が編成されており、チーム参加型プログラムを通じた研究能力の育成面にも十分配慮されており、優れた取組である。 <li data-bbox="165 1117 1430 1196">・ ただし、学生の個性を発掘し、それを伸ばすという観点から、教育プログラムの運営体制等の面で、更なる工夫が望まれる。 			